

# 豆狸の寝言

副会長 三原幸二

先日、思いがけない体験をした。お遣い物にするグラスを買い、それにイニシャルを彫ってくれるよう店の人に頼んだ。2週間ほどかかるという。それでは間に合わない。なんとか1週間くらいでできないかと頼んでみた。

店員は、できませんと言う。「ただし、割増料金を申し受けます」と。私は思わず、「えっ」と驚いた。今だかつて、納期を早めてもらうためにお金を払ったことがない。

グラスにイニシャルを彫るぐらい、そんなに手間のかかる仕事ではないだろう。どうせ機械で彫っているのだろう。5分か10分もあればできる仕事ではないのか。そう思い、腹立たしかった。

我が家に帰って、いきさつをぼやいていると、「あらそうですか。洗濯物でもそうですよ」と家内は言った。

ワイシャツ等を、普通3日かかるところを2日で仕上げしてほしいと頼むと、割増を取られるという話である。

家内が涼しい顔をして言うので、私達電材業界の人間が無料だと認識していたサービスが、所変われば有料であるということに、もう一度驚いた。バブル景気の売り手市場の時でさえ考えられなかったことが、この未曾有の不況期に行われている事実に、複雑な思いがした。

しかし、冷静に考えてみると、実はこの割増金は「罰則



金」ではないのだろうかとも思える。皆が整然と並んで順番を待っている列に、我が物顔で割り込んでいく光景を思い浮かべてみれば、罰則金は当然ではないかという気もしてくる。

というものの、なかなか納得できることではなかったが、割増金を承知してイニシャルを彫ってもらうことにした。

正直言って、私共も涼しい顔で「納期を急がれる場合は、割増金を申し受けます」といって追加料金をいただいたり、支払ったりできる日が、この業界にも早くやってくればいいのになと、ちょっとうらやましい気持ちになったのも事実です。

みなさんはいかがでしょう。

(納得いかない罰則金) 2002 年執筆